

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	武雄市立 橘小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学力向上について」「心の教育」について、児童や保護者、地域の方々の肯定的な回答を得ることができ、学校の方針をよく理解していただいた結果であると考えます。</li> <li>・地域人材を活用して、防災教育、食育につながる米作り、野菜作り、先輩から学ぶキャリア教育等の学習が充実し、地域への愛着を感じる機会となり、志を高める教育につながった。97%の児童が、学習した内容が自分のためになったと回答しており、学校目標の「学校・家庭・地域の思いを受け継ぐ児童」を育てることができた。</li> <li>・教員の積極的なICT活用により、1人1台端末を効果的に活用した授業改善ができてきた。さらに、業務効率化につながるようなICT活用を目指したい。</li> </ul>
2 学校教育目標	生きる力を身に付け、学校・家庭・地域の思いを受け継ぐ ときわっ子の育成
3 本年度の重点目標	ア 確かな学力を育む教育活動の推進 イ 豊かな心を育む教育活動の推進 ウ 健やかな体を育む教育活動の推進 エ 特別支援教育活動の推進 オ 防災教育の推進 カ 時代のニーズに対応した教育の推進 キ 家庭・地域との連携強化 ク 働き方改革の推進

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○確かな学力を育む教育活動の推進	○「自分の考えを相手にわかるよう説明することができていますか」の質問に対して、肯定的な回答をする児童の割合85%以上。 ○市販テストにおける5、6年生「思考・判断・表現」の平均得点が国語85点以上、算数75点以上。	・授業づくりのステップ1・2・3「チェックシート」を活用し、定期的に授業実践を振り返り、ステップ2以上を目指す。 ・家庭学習時間について、2か月に1回実態調査を行い結果を提示する。	A	・「授業づくりステップ1・2・3」のチェックシートで、ステップ2以上を達成できた回答した職員が100%で達成できた。 ・市販テストの5、6年生「思考・判断・表現」の平均得点が国語92点、算数81点で達成できた。 ・定期的な家庭学習実態調査を実施した。	A	・「授業づくりステップ1・2・3」のチェックシートで、ステップ2以上を達成できた回答した職員が98%で達成できた。 ・市販テストの5、6年生「思考・判断・表現」の平均得点が国語90点、算数77点で達成できた。 ・家庭学習実態調査を年に2回実施した。しかし、結果を提示するだけで、効果的な活用については課題が残った。	A	・日々の学習の積み重ねが数値に出ていて、努力が見える。 ・こつこつとした取組が素晴らしい。工夫と努力の賜物だと思う。 ・家庭学習の取組には格差があるのではないかと。	・学力向上対策コーディネーター（松江） ・研究主任（葉林） ・学習部（樋口ま）	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動の推進	○豊かな心についてのアンケートにおいて肯定的な回答をした児童が85%以上（児童アンケートにて）	・道徳の授業の充実を図る。 ・人権週間、人権集会に全職員で取り組む。	A	・児童アンケートでは、友達との関係について肯定的な回答をした児童が90%以上で達成している。 ・ふれあい道徳を実施することができた。 ・人権週間、人権集会でも実態に応じた取り組み内容を提案し、全職員で実践する予定。	A	・児童アンケートでは、友達との関係について肯定的な回答をした児童が中間評価と同じく96%で達成している。 ・人権週間、集会では、一人ひとりのよさに焦点を当てた取り組みをすることができた。	A	・教室の中でも全体の行事の中でも人に対する感謝の心が伝わっている。 ・残りの数%の児童が快適に学校生活を送れていることを願っている。	道徳教育推進教師(馬場) 人権・同和教育(田果)	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止について、教師の組織的対応ができた回答する教職員が、80%以上(教職員アンケート)	・毎月生活アンケートや学期1回のQアンケートを実施し、児童の状況把握に努める。 ・毎月の児童支援連絡会で気になる事実等について共通理解を図る。	A	・教職員アンケートでは、組織的な生徒指導及び心の教育において、肯定的な回答をした教職員100%で達成できている。 ・Qアンケートの実施と研修を行い、児童の状況把握を行い、指導・支援に生かすことができた。	A	・教職員アンケートでは、組織的な生徒指導及び心の教育において、肯定的な回答をした教職員100%で達成できている。 ・毎月生活アンケートを実施し、それをもとに聞き取りを行った。児童支援連絡会で、全職員で共通理解を図り、いじめの早期発見や早期対応に努めた。	A	・いじめについては今後も課題であるので、心の強さ・友達の大切さを忘れないようにほしい。 ・職員自信は強みであるのでこれからも心の教育をお願いしたい。	・生徒指導(中野) ・教育相談(石橋)	
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」という肯定的な回答をした児童80%以上	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と肯定的な回答をした児童94%、「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした児童83%で達成できている。 ・各学年でキャリア教育を行い、行事などをふり返りながら記録に残した。	・授業だけでなく教育活全体で全職員が子どもの良いところを認め、伝え合うように努める。 ・各学年で特別活動や日常生活を通して、発達段階に応じたキャリア教育を行い、ふり返りをキャリアパスポートへ残す。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と肯定的な回答をした児童94%、「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした児童83%で達成できている。 ・各学年でキャリア教育を行い、行事などをふり返りながら記録に残した。	A	・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。」と回答した児童94%、「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童87%で達成できた。 ・特別活動等を通して、自分のことをふり返る機会を設け、記録に残すことができた。	A	・見てくれている、認めてくれていると実感できることが大事である。幸せな児童が多く、安心している。 ・教師と児童との信頼関係は日々の会話の中にあると思う。グループワークなどを行ってさらに深めてもらいたい。	・教務主任(松江) ・特活部
	◎体験活動を中心とした郷土について学ぶ体験活動の充実	○体験活動についてのアンケートで、「体験活動を通して、たしな町のことに詳しく知ることができた」と回答した児童が96%で達成できた。 ○学期末に、教職員へのアンケートを実施した。	・生活科、総合的な学習の時間における体験活動についてのアンケートを実施し、児童の反応を考察する。 ・学期末に、教職員へのアンケートを実施した。	・体験活動を通して、橘町のことについてより詳しく知ることができた」と肯定的な回答をした児童が96%で達成できた。 ・多くの学年で地域人材を活用し、郷土について学ぶ体験活動や授業を行うことができた。	A	・体験活動を通して、橘町のことについてより詳しく知ることができた」と肯定的な回答をした児童が96%で達成できた。 ・多くの学年で地域人材を活用し、郷土について学ぶ体験活動や授業を行うことができた。	A	・体験活動を通して、橘町のことについてより詳しく知ることができた」と回答した児童97%。 ・「郷土について学ぶ体験的な活動を計画し、実施した」と回答した教職員は100%であり、体験活動を充実させることができた。	A	・橘町は歴史ある場所がたくさんあるので、いここを学習してほしい。 ・地元に誇りをもって育ってほしい。素晴らしい取組がなされていてありがたい。	・生活(北原) ・総合(吉岡) ・田んぼの学校(樋口ま)
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上 「好き嫌いをせず食べている」と回答した児童が80%以上。(児童アンケート)	・給食委員会の活動として、給食の月目標や季節や行事に関わる食材や栄養についての情報を発信していく。 ・給食集会で、食に関する興味・関心をもち、食の重要性や感謝の気持ちを育む。	A	・「健康に良い食事をしている」の問いに肯定的な回答した児童は96%、朝食を食べている児童は97%、「好き嫌いをせず食べている」児童は89%であり、食の重要性を感じている児童が多い。 ・給食集会で、栄養管理士や調理師の思いを知らせて食に関する食の重要性を知り、感謝の気持ちを育むことができた。	A	・「健康に良い食事をしている」の問いに肯定的な回答した児童は98%、朝食を食べている児童は98%、「好き嫌いをせず食べている」児童は92%であり、食の重要性を感じている児童が中間評価より増えている。 ・今年度、「食育推進優良校」を受賞した。 ・給食集会で、栄養管理士や調理師の思いを知らせて食に関する食の重要性を知り、感謝の気持ちを育むことができた。	A	・「食育は心豊かに身体を作ることにとっても大切なことなので、栄養のパランスよく食べ、健康に気を付けて過ごしてほしい。 ・安定した結果に嬉しく思う。取組とおいしい給食に感謝したい。給食が当たり前なことを自覚してほしい。 ・「食育推進優良校」受賞おめでとうございます。今後も引き続き取組を継続してほしい。	・保健主事(中野) ・栄養教諭(山口) ・食育推進担当(馬場)	
	○体育的行事や健康委員会による活動の充実	○体力テストで4種目以上全国平均に達することができる。	・健康委員会や各学年での、スポーツチャレンジの実施や外遊びの奨励を行う。 ・体育的行事に合わせ、強化週間や旬間を設定し、児童が運動に意欲的に取り組めるようにする。	A	・体力テストでは、県平均と比較し4学年が4種目以上を上回っていた。学年による差や、種目による差が大きく見られる。 ・気温の高い日が続き、外遊びの制限をした。気温が落ち着くのに合わせ、運動を奨励していく。	A	・約2週間のマラソン旬間を設けて、体力を向上させ、運動することの楽しさを味わわせることができた。 ・体力テストでは、平均5種目ほどで県平均に達した。しかし、学年間による差や、種目による差が大きい。 ・5年生全国体力・運動能力調査では、8種目中、男子は全種目、女子は5種目で平均を上回った。	A	・子どもたちは朝から元気で、体力づくりもとても頑張っている。目標達成できていて素晴らしい。これらもたくさん外で遊んでほしい。 ・夏休み中のラジオ体操の取組で地区にばらつきがある。町からも動きかけると、学校からも地域のひとと一緒に運動することを呼びかけてもらいたい。	・体育主任(中野)	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・時間外在校等時間が45時間を超える職員が20%以下を目指す。 ・定時退勤日の設定と奨励を行う。 ・年休や特別休暇の取得を奨励する。 ・チームを組み、個の荷重負担を軽減する。	C	・4～9月までの月の時間外在校等時間の平均が45時間を超える職員は、全体の25%であった。昨年度の同じ期間よりは減少しているが、今年度の目標にはまだ達成していないため、奨励を行っている。 ・1月～9月までの年休取得日数は、平均7.3日で、今後の取得を奨励していく。	B	・4～1月までの月の時間外在校等時間の平均が45時間を超える職員は、全体の12.5%まで減少し、今年度の取組目標を達成することができた。 ・1月～12月までの年休取得日数は、平均10.6日であった。目標達成は難しかったが、特に長期休業中での取得を奨励することができた。	B	・役員をしていたからこそ、学校側の対策や改善点を知ることが多かった。職員定数が全体的に不足している中で工夫して職務ができていた。 ・短期間で改善するのは難しいことは思うが、チーム担任制等を活用し少しでもよくなるよう更なる改善の方法を見出してほしい。 ・休日も地域行事へ参加されていて大変だと思うが、ありがたい。	・管理職	
	○会議や学校行事等の精選・効率化の推進	○「会議や業務の効率化を図るための工夫をしている」と回答する教職員80%以上	・職員会議・連絡会等の資料、配布物の提示の工夫やポイントを絞った伝達を行う。 ・精選可能な行事等の内容について吟味するための時間確保を行う。	B	・効率化を図る工夫をしていると回答した職員は、83%で学校全体としては、効率化を意識した工夫ができていた。職員会議では、各担当の目安の時間を設定することで、ポイントを絞った提案ができた。 ・各個人としてさらに工夫できることを職員間で情報交換し、日々の業務に生かしていくようにした。	A	・効率化を図る工夫をしていると回答した職員は、学校全体85%、個人が中間の55%から69%に増加し、効率化を意識した工夫に努めたといえる。職員会議では、各担当の持ち時間を設定することで、時間を意識した提案を行うことができた。	A	・職員会議等でより効率のよい業務改善につながるよう今後も頑張りたい。	・管理職	
●特別支援教育の充実	○配慮を要する児童の理解と支援体制の強化	○特別支援に関する専門性が向上したと認識した教職員が80%以上	・交流学級と連携を図り、教師の専門性を高めるための特別支援に関する研修会の実施。 ・ケース会議の実施、情報交換	A	・8月に講師(本校)を招いて研修会を開催し事例をもとに話し合い研修を深めた。日々、職員間で児童理解を深めるための情報交換を心がけている。 ・特別支援に関する専門性が向上したと認識した教職員は91%だった。	A	・日々、職員間で児童理解を深めるための情報交換を心がけ、事例によってはケース会議を開き検討することができた。 ・特別支援に関する専門性が向上したと認識した教職員は92%だった。	A	・家庭や地域ともに足並みをそろえてよい環境にしていきたい。職員の学びの姿勢に感謝したい。 ・特別支援についてはとても行き届いていると思う。	・教育相談(石橋) ・特別支援(馬場・北原・澤村)	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	主な担当者	
○防災教育の推進	○防災教室および大雨対応避難訓練の実施	○防災講座・集団下校後のアンケートで、「防災意識が高まった」と回答する児童80%以上。	・地域消防団を講師とする防災講座を全校児童を対象に行う。 ・定期的ほか、警報発令時に集団下校引率を行う。	A	・「防災意識が高まった」と回答する児童96%。地域消防団を講師とする防災講座を全校児童を対象に行なった。警報発令時に集団下校引率も行った。今後、火災・地震避難訓練実施予定。	A	・「防災意識が高まった」と回答する児童97%。中間評価以降、警報発令等なかったため、集団下校の実施はない。 ・地震・火災避難訓練を実施することで、児童の防災意識を高めることができた。	A	・町でも特に水害について国・県・市を交えて年数回の協議会や要望活動を行っているの、災害の協い町づくりを目指してともに頑張りたい。 ・今後も消防士の話など聞く機会があればよい。	・安全教育(中島) ・生活部	
○時代のニーズに対応した教育の推進	○教育におけるDX化の充実 ○チーム担任制の導入とチームの意識化	○タブレットを活用した授業が「分かりやすい」と回答する児童90%以上。 ○授業準備や教材研究等の時間を確保できるようになったと回答する教職員80%以上。	・教科等の学習での積極的な活用を行い、教師のスキル向上研修を、年間1回以上行う。 ・情報モラル教室を3～6年生を対象に行う。 ・チーム担任制の進め方やよさについて校内で共有し、より効果的な方法に改善していくとともに保護者、地域への周知も行う。 ・若手教員を全職員で育てる意識を高める。	A	・タブレットを活用した授業が「分かりやすい」と回答する児童97%で目標を達成できた。 ・夏休みの期間に、ICTに関する職員研修を行った。実践紹介もあり、学級の実態に合わせてICTを取り入れやすい場面が増えてきた。 ・情報モラル教室、5～6年生実施済み。3～4年は今後実施予定。 ・時間確保ができるようになったと回答する教職員は92%で、職員全体では、チーム意識の向上を図ることができた。特に、ベテラン・中堅・若手教員がそれぞれの立場で力を発揮し、連携することができた。	A	・タブレットや電子黒板を使った授業が「分かりやすい」と回答する児童は96%で、引き続き目標を達成できた。 ・「授業準備や教材研究等の時間確保ができていくようになった」と回答する教職員は学校全体として92%、個人としても中間の64%から83%に増加した。チーム担任制のよさを実感することが増え、学校全体の組織力向上につながることもあった。 ・日々、職員間で児童理解を深めるための情報交換を心がけ、事例によってはケース会議を開き検討することができた。 ・特別支援に関する専門性が向上したと認識した教職員は92%だった。	A	・子どもたちは、タブレットでの学習は分かりやすいと捉えているようなのでよいと思う。持ち帰りについては、毎日ではないところが多いと思う。 ・タブレットや電子黒板など学校の環境が整っている。ICTを使った教育は子どもの意欲を引き出す面ではよいと思う。ただ、教材準備等の時間確保が必要である。 ・チーム担任制の強化を希望。 ・教育への目標を高め、人員を増やすことが必要だと思われる。 ・花まるタイムに参加して子どもたちに良い方向に変化が見られた。確かに学力が向上していると感じた。	・情報教育推進リーダー(樋口ゆ) ・視聴覚担当(中野) ・チーム担任制(管理職)	
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育											
5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学力向上」については、職員の日々の取組の積み重ねで、市販テストや学力調査でも成果を残すことができた。保護者・地域の方々の学校の方針への理解と協力も成果につながったものと考えます。</li> <li>・「心の教育」については、道徳教育や人権教育を充実や心のアンケートやQアンケートの活用により、友達とのよい関わり方や学級づくりの充実を図ることができた。友達との関係について肯定的な回答をする児童は96%で、豊かな心を育む教育活動の推進ができた。</li> <li>・地域との連携により、防災教育、食育につながる米作り、野菜作り、キャリア教育、ボランティア活動等の学習や活動が充実し、地域愛をさらに高めることができた。97%の児童が、「体験活動を通して橘町のことについてより詳しく知ることができた」と回答しており、学校目標の「学校・家庭・地域の思いを受け継ぐ児童」を育成することができた。</li> <li>・「チーム担任制」の導入については、児童や保護者・地域の方々の理解と協力のもと、教職員の意識改革と学校全体の組織力の向上につながることができた。今後もさらに改善を図りながら効果的な取組を推進していきたい。</li> </ul>										